

街道を歩く

天台宗聖徳寺の末寺、号を慈眼山
天平17年(745)行基の創建といわれ。安食荘司安食重頼の時常観寺といひ、その後山田荘司山田重忠の時成願寺といった。本尊十一面観音菩薩は行基作、市内で最古の一つ
信長公記を著した太田牛一はこの寺で育ち 還俗し武将となる。

この神社は安井城鬼門の守護神として
創建されたともいわれている。神社西南一帯が
天正年間(1573-92)頃信長に仕えていた
安井将監・浅野長勝によって築城された。
安井城跡。東西約160m、南北約150m
の規模。津島に移るまで住む。長勝は秀吉に
嫁いだ”ねね”の養父。



犬飼秀長の腕塚。秀長は天正10年(1582)山崎合戦で右腕を切られ腕を持ち帰って埋めてという。アビタ敷地内にあったが...

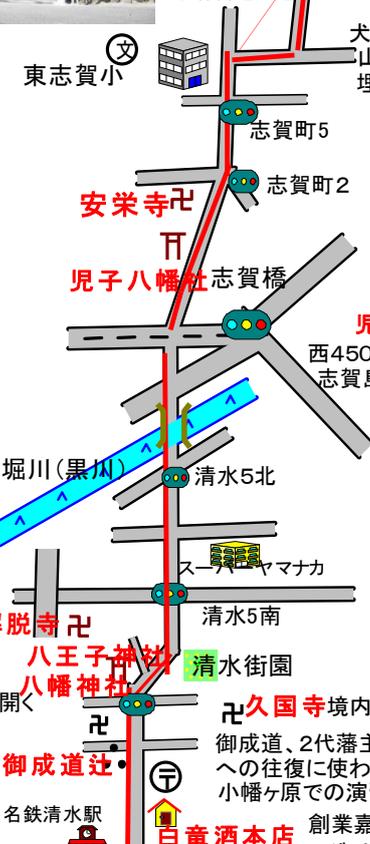


安井寺八地藏石仏
曹洞宗、名古屋万松寺の末寺、慶長19年(1614)に建立。六地藏は高さ43cm、幅26cm硬質上下3体ずつ2段に浮彫りされている。砂岩に格子窓のついたお堂内に安置されている。六地藏は六道において釈迦の入寂ご弥勒菩薩が出現する56億7千万年まで衆生の苦患を救うという。



粟稗塚
粟稗に貧しくもあらず草の庵
貞享五年(1688)芭蕉この地訪れ句会を開く

寺は明暦3年(1657)尾張藩家老成瀬正虎がこの地に竹天和尚を招き薬師如来を祀る庵「竹葉軒」を建てたのに始まるという。和尚は竹葉軒となりの尾張藩士に俳諧を教えたという。



兒子八幡社
西450mにある綿神社の別宮。博多湾にある志賀島の志賀海神社勧請。祭神少名彦神。



八王子神社
高天原で天照大御神と建速須佐之男命の誓約で生まれた八神。境内に明治天皇穂小休止所碑。



久国寺 境内に岡本太郎作 梵鐘ほか石佛塔など。御成道、2代藩主光友の時大曾根御屋敷(徳川園)への往復に使われる。明治一昭和にかけて名古屋師団小幡ヶ原での演習時の往復路。創業嘉永年間(1848-54) 造り酒屋「今も」白竜の銘酒”で営業



名古屋城

伝馬会所 札の辻

慶長18年(1613)本町通伝馬町筋の交差点に荷物の運搬に必要な人馬を継ぎたてのための伝馬会所が設けられる。また寛文5年(1665)には飛脚会所も設けられた。

東大手門跡

名古屋拘置所
ういる愛知

長久寺
慶長15年(1610)清須から移築、表門も移建寛文8年(1668)武蔵国の武家が寄進したといわれる庚申塔がある。江戸時代初期の貴重なもの。小堂に祀られている六臂青面金剛は市内最古。



余芳亭(移築準備中)
元名古屋城にあった庭園の茶室を明25年に清水町大矢氏の別荘に移される。(元は竹腰山城守中屋敷) 昭和41年国道41号開通により道路右側に移される。

貞享元年(1684)、芭蕉は、野ざらし紀行の途次、名古屋に立寄り、岡田野水、山本荷兮他青年俳人らと連句の会を行った。

木曾街道1 名古屋～味鏡の渡し付近

